



巻頭挨拶

駒澤会第9代会長

一戸 隆男



困難を乗り越え、次代へ繋ぐ駒澤会の志

会員の皆様におかれましては、日頃より駒澤会の活動に対し多大なるご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

この度、第43号となる「駒澤会だより」をお届けするにあたり、まずは皆様の温かいご支援に改めて感謝を申し上げます。

私は令和2年に第9代会長に就任して以来、今日まで3期にわたり駒澤会の舵取りをさせていただきました。この間、世界は新型コロナウイルスという未曾有の危機に直面し、私たちの活動も大きな制約を受けました。大学教育、そして学生生活の在り方が問われる困難な時期でありましたが、会員の皆様、そして大学関係者の方々との「絆の力」を信じ、この難局を無事乗り切ることができました。

特に、学生たちが安心して学業に専念できる環境を整えるため、かねてからの懸案事項でありました奨学金の再開は、駒澤会にとって大きな使命の一つでした。関係各位のご理解とご協力により、この目標が実現できたことは、駒澤会の使命を果たす上での大きな一歩であると確信しております。

しかし、私たちは立ち止まっている訳にはいきません。「新たな常態」へと移行する現代において、駒澤会はこれまで以上に大学と学生を支え、時代に即した支援の形を追求していく必要があります。

今後とも、駒澤大学のさらなる発展と、会員の皆様のより一層のご健勝・ご活躍を心よりお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

教育後援会と駒澤会の懇親会に参加して

総務部 武井 由佳

令和7年8月22日（金曜日）の19時から教育後援会と駒澤会との懇親会が新橋の老舗中華料理店「新橋亭」で開催されました。

会場は3つの円卓で席が設けられ、教育後援会から10名、駒澤会から17名、事務局から1名合計で28名が出席致しました。進行は駒澤会堀副会長、開会の言葉を駒澤会一戸会長が述べ、井垣教育後援会会長、駒澤会山田副会長の挨拶、森屋顧問の乾杯で会食をスタートしました。

駒澤会は卒業生の父母の有志の方々による「子弟卒業後も奨学金制度を通じて駒澤大学に寄与していきたい」との想いから始まった団体です。令和7年度で創立55周年を迎えます。わが娘は令和2年に卒業していますが、勧誘されたことがきっかけに令和5年10月に駒澤会に入会させていただきました。入会して初めての参加は秋の研修会（箱根）でした。どんな会員さんや先輩方がいてどんな雰囲気集まりなのだろうと少し不安でしたが、皆さん優しく、感じの良い方が多かったので不安もすぐなくなりました。沢山のひととの出会いの中でこの箱根の研修会は非常に良い刺激を受け、リフレッシュすることができ、有意義な時間を過ごすことができました。

今回の懇親会も美味しい中華料理と特別な紹興酒をいただきながらリラックスした雰囲気の中、楽しい時間を過ごしました。大きな円卓でしたので沢山のひととの交流はできませんでしたが、隣の席の方（後援会の方）とはお話ができました。来年の賀詞交歓会の参加をととても楽しみにしていると仰っていました。趣味のゴルフの話や在学中のご子息様のお話やわが娘の在学中のエピソードや駒澤会の年間の活動内容など多岐にわたり、情報交換する事ができました。

今回の懇親会に参加して駒澤会と後援会の存在の大きさと駒澤愛を改めて感じ今後の活動への励みになりました。

駒澤会や後援会の活動は情報交換、意見交換を行う貴重な機会であると認識し、そして今回も楽しい時間を過ごせたこと、懇親会に参加させていただけたことに感謝致します。

ご挨拶いただいた皆様の言葉を糧にさらに活動に邁進してまいります。

ご子息様、お嬢様の卒業後に駒澤会に参加されてはいかがでしょうか。皆様のご入会をお待ちしております。



懇親会に参加して

駒澤大学教育後援会 会長 井垣 達也

この度は、駒澤会懇親会に参加させていただき、誠にありがとうございます。

今回、教育後援会からは10名参加させていただき、駒澤会の方々と楽しく有意義な時間を過ごすことができ、本当にありがとうございました。

駒澤大学においては、本年度禅文化歴史博物館（耕雲館）が、国の有形文化財(建造物)に登録されました。既に図書館に所蔵されている全国で有数の仏教・禅関係の貴重な資料に加えて、またひとつ歴史的価値の高い資産を保有する大学となりました。このような環境で学び過ごした学生は、将来かけがえのない貴重な経験となることでしょう。

現在、大学と学生を支援する学外支援組織は、同窓会・駒澤会・教育後援会の3つがあり、それぞれの組織規模、会員構成、活動内容は違いがあるものの、大学と学生を応援する想いは同じです。

本年8月23日に設立66周年になった教育後援会では、他の支援組織との連携をより深めるため、同窓会と来年1月全国男子駅伝（広島）で同窓会広島県支部との合同応援を計画しています。

駒澤会とは、これまでも様々なイベントで一緒させていただいておりますが、駒澤会の活動により興味が沸くように4年生委員への駒澤会イベント案内メール連絡の協力や、教育後援会の役員会での駒澤会イベントの周知を図ってまいります。また、現在10年振りとなる新しい県支部設立を検討しており、平成28年当時に新支部設立に携わった教育後援会の元会長・元副会長の方々から貴重なアドバイスをいただき、とても感謝しております。

駒澤会と教育後援会は、卒業生・在学生の違いはあるものの、大学の主要なステークホルダーである同じ保護者で構成する支援組織です。今後とも、懇親会をはじめさまざまなイベントで一緒に活動していけるよう、ご指導・ご鞭撻のほどをよろしくお願い致します。



駒澤会参与の井垣教育後援会長（写真左）、兼松副会長（写真右）からご挨拶

令和7年秋の研修会

厚生部 副部長 山口 正和

令和7年度秋の研修会が10月18日（土）に開催されました。

今年は東京国立博物館で開催されている特別展「運慶 祈りの空間―興福寺北円堂」の展示を体感する研修会を行いました。

運慶の展示を観る前に、駒澤大学 村松哲文学長による鎌倉時代の仏像に関する講義を受け基礎知識を吸収したうえで、展示を観ることで運慶の傑作7体によりリアルにまるで鎌倉時代にタイムスリップしたような厳かな空気に包まれた迫力ある展示に感じられました。木を削って精巧に出来た仏像、血管や筋肉、袈裟の細部までリアルな力強い仏像に武士の存在感が感じ取れ、貴重な体験ができました。

迫力ある展示のあとは、東京国立博物館の一般展示を観て、アルカディア市ヶ谷に移動し村松学長を囲んでの懇親会。

松村学長はとてもユーモラスな方で、話しやすく充実した懇親会でした。

一日でしたが、多くの会員の皆様に御参加いただき充実した楽しい時間を過ごすことができ、親睦を深められたことと思います。これからも、皆様と共に楽しい駒澤会の活動を続けたいと思っております。



東京国立博物館本館を背景に記念撮影



わかりやすい解説で初学者にも好評でした！



質問コーナー也大盛況



アルカディア市ヶ谷での夕食会ではご子女のその後のご活躍などの情報交換も行われました

講師の村松哲文学長よりコメントをいただきました



この度、駒澤会「秋の研修会」でご講演させていただき、誠に光栄でした。

熱心にご聴講くださった会員の皆様の大学への篤いご支援と、その絆の深さを改めて実感いたしました。

駒澤会は、奨学金を通じて学生を支えてくださる、本学にとって極めて大切な「駒大ファン」の方々です。今回の盛会が、教職員にとっても感謝と協働の意識を高める貴重な機会となつてほしいと願っております。

これからも大学全体で駒澤会との連携を深めてまいります。

奨学金授与式を執り行いました

広報部 富山 好美

昨年度から再開された駒澤会からの学業成績の優秀な学生に贈る奨学金授与式が7月14日に行われました。式には40名の受賞者のうち29名が出席しました。

授与式ではまず一戸会長より、駒澤会が昭和46年に発足したこと、令和3年には50周年を迎えていることなどの話とともに、駒澤会奨学金の原資は、寄付や卒業生保護者の駒澤会会費から賄われているという説明がありました。そこで授与された学生の方々には、充実した学生生活を送るために活用してもらいたいというあいさつがありました。

続いて村松哲文学長より「授与おめでとう」というお祝いの言葉があり、駒澤会は卒業生であるOBの保護者の方々の会で、現在200名弱のメンバーであることなどの紹介がありました。そして、仏教の基本的精神である「智慧・慈悲・縁起」の3つをあげ、智慧は、大学でしっかり学んで行くことだが、慈悲は他者の気持ちを思いやることということで、それは駒澤会がみなさんを助ける気持ちであること、そして、縁起は人とのつながりということで、多くの人々に支えられているということを忘れてはいけない、目に見える援助、見えない援助があるが、今回は奨学金という目に見える援助があったということをかみしめて、学生生活をおくってほしいというお話がありました。

その後、出席した学生一人一人に山田副会長から、奨学金決定通知書が手渡されました。



一戸会長より挨拶



村松学長より駒澤会会員の皆様へ御礼がございました



本年も無事に奨学金を
お渡しすることができました

温かいご支援
ありがとうございます

仏教学部2年

工藤 海真さん



この度は、駒澤会奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます。これまでの学業への努力をこのような形で評価していただき、大変光栄に存じます。心より感謝申し上げます。

私は昨年度、仏教研修館での寮生活を通して、学問と生活を一体として実践する大切さを学びました。朝の座禅や勤行や清掃など、

共同生活の中では、他者との関わりを通じて自分を見つめ直す機会が多くありました。自分の不足を知ることは、同時に誰かに助けてもらう感謝を知ることでもありました。一方で、学業との両立が難しく感じることもありました。仏教学部での学習内容そのものから生活と勉強のモチベーションを得ることができました。日々の出来事一つ一つには全て自分とのご縁があり、経験として自分自身を常に変化させていることを実感しました。そこから、どんな出来事も良いご縁だと考えるようになりました。仲間と励まし合いながら、最後までやり抜くことができたのは、寮生活を通じて得た慈悲と縁起の精神のおかげだと思います。

現在は一人暮らしをしながら、道元禅師の『正法眼蔵』や鈴木俊隆の“Beginner’s Mind（初心）”について学んでいます。どちらの教えも、常に新たな気持ちで学びに向かうことの大切さを説いており、日々の生活や勉強においてもその精神を忘れないよう努めています。学ぶことは知識を積み上げるだけではなく、むしろ自分の心を磨き、今この瞬間を丁寧に生きることだと感じるようになりました。

今後は、客観的な評価にこだわらず、主観的な興味を重視し、学問だけでなく日常の中での学びと経験を重ねていきたいと思っています。今回いただいた奨学金は、関連文献の購入や学修環境の整備に大切に活用させていただきます。

最後に、道元禅師の言葉「仏道をならふといふは、自己をならふなり」を胸に、これからも学びを通して自分自身を省みながら、一步ずつ成長してまいります。改めて、駒澤会の皆様に心より御礼申し上げます。

文学部歴史学科4年

永澤 紅葉さん



この度は、駒澤会奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます。大学での学業に対する努力をこのような形で評価していただけたことを、大変嬉しく思います。駒澤会の皆様に心より感謝申し上げます。

私は幼い頃から、自宅近くで行われていた発掘調査に興味を持ち、大学ではぜひ

考古学を学びたいと考えて考古学専攻を選びました。現在は古代の寺院や建物の跡などの遺構に関心があり、それをもとに卒業論文のテーマを決めたいと考えています。10月下旬には中国での発掘実習に参加し、実際の現場でどのように発掘が行われているのかを学べた貴重な機会となりました。現場では北京大学の学生と共同で作業を行い、コミュニケーションをとる中で、中国の大学や考古学の現状について知ることができ、日本との作業方法や考え方の違いに驚かされました。

また、学芸員という職業や地域博物館の活用・連携にも関心があり、現在は学芸員と社会教育主事の資格取得を目指しています。どちらの資格も今年度に実習があり、学芸員は7・8月に8日間、社会教育主事は6～11月に14日間行いました。大学で学んだことを現場で確認できたり、学んだ理想と現実的な問題とのギャップに気づかされたりと、どちらの実習も非常に有意義な経験となりました。

皆様からいただいた奨学金は、近隣から遠方まで様々な博物館や資料館を訪れる際の交通費や入館料、資格取得のための教材費として活用させていただいております。実際に本物の資料を間近で見たり博物館の展示方法を観察したりすることで、より学びを深めることができます。

将来の具体的な進路はまだ決まっていませんが、今後も私が大学で学びたいと思った考古学・学芸員・社会教育についてさらに知識を深められるよう学問に精進し、充実した大学生活を送りたいと思います。改めて、駒澤会奨学生に採用していただきましたことに、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

経済学部経済学科4年

大岩根 綾介さん



この度は、昨年度までの学業成績をご評価いただき、駒澤会奨学生に採用していただきましたこと、誠に光栄に存じます。大変うれしく存じますとともに、ご支援を賜りました駒澤会の皆様には厚く御礼申し上げます。

私は経済学部の学生として経済の仕組みや社会の動きを多角的な視点から

理解することを目標に、日々の学業に励んでまいりました。講義や私が所属する教育経済学ゼミでの学習活動を通じて、社会を支える経済の仕組みを具体的に学び、理論を現実の課題に結びつけて考える力を養うことができました。私は4年間の学びを積み重ねる中で、経済学の社会的意義やその奥深さを日々実感しております。

また、私は経済学を学んでいくなかで、その知識をさらに向上させるために資格の取得を目指すようになりました。企業のお金の流れを学ぶ簿記や、一人ひとりの人生設計を金銭面からサポートするファイナンシャル・プランナーの資格の取得に取り組んだことにより、授業で得た知識を実用的なものにすることができたと実感しております。そしてこの度、駒澤会からいただいた奨学金により新たな資格の取得に必要な教材や費用を賄うことができました。十分に自らの学びと知識を深めることができ、今回の奨学金の受給にとっても感謝しております。私は大学卒業までの限られた時間を大切にし、さらなる自己の研鑽に努めたいと思っております。そして将来は4年間の大学生活で培った知識と考える力を糧に、社会の一員として人々の生活に貢献できる人材を目指してまいります。

私は今回いただいた奨学金とあたたかなご厚情を忘れずに誠実に努力を重ね、自分もまた後輩たちの深い学びを支えられるような立場になるため精進してまいります。末筆ながら、駒澤会のさらなるご発展と、会員の皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。改めまして、駒澤会の皆様、この度のご支援、誠にありがとうございました。

文学部歴史学科4年 王 嘉陽さん



2年連続で駒澤会奨学生として選出していただき、誠にありがとうございます。

昨年度にいただいた奨学金は、自動車の免許取得のための合宿費用に充てさせていただきました。そのおかげで無事に運転免許を取得することができ、車という新たな交通手段を手に入れました。これにより、行動範囲が大きく広がり、さまざまな場所や人々と出会う機会が増え、自分の見識を深めるきっかけとなりました。

今年度の奨学金を活用し、私は中国へ渡航しました。現在は福建省の福清市に滞在しています。小さな町ではありますが、人々はみな活気に満ちており、夜になると繁華街は賑わいを見せます。ここ数年の中国の発展は目覚ましく、食事のデリバリーは10分ほどで届き、映画館の座席にはマッサージ機能が備わっており、レストランでは日本よりもリーズナブルな価格で高品質な料理を楽しむことができます。

中国は海の幸、山の幸に恵まれた資源豊かな国ですが、それ以上に、人々の「ハングリー精神」がこの急激な発展を支えていると、現地に住む友人が教えてくれました。かつての中国では、今日の食事があっても明日の保証がない、いわば弱肉強食の世界でした。その中で貧困から抜け出し、明日を生き抜くためには、商売で成功して豊かになるしか道がありませんでした。そのため、人々は常に人と交流し、信頼関係を築こうとしてきました。南方ではお茶を囲んで、北方ではお酒を酌み交わしながら、人脈を広げ、商機を掴もうとしてきました。

この精神は今もなお受け継がれており、必ずしも商売のためにというわけではありませんが、「人とのつながりを大切にする」という価値観は、時代を超えて変わらないようです。この話を聞いて、私は単に町の外見的な繁栄だけでなく、「なぜその繁栄が生まれたのか」という、人々の根底にある精神に目を向けることの大切さを実感しました。地元の人々と対話することで、地域の本質をより深く理解できるのだと感じています。

大学卒業後は一般企業に就職する予定ですが、それと同時に、世界中のさまざまな国を旅し、異なる文化や価値観に触れながら、自分の視野をさらに広げていきたいと考えています。人の成功の裏には、必ずその土地の歴史や風土、人々の生き方という「土台」があります。しかし、それらは国や文化によって異なります。だからこそ私は、人との交流を大切にしながら、多角的で深い視点でこの世界を見ていくことを、これからも心がけていきたいと思います。



この度は、令和6年度駒澤会奨学金に採用して頂き、誠にありがとうございます。私は学芸員資格を取得したいと考え、博物館学講座を履修して日々勉学に励んでおります。今回頂いた奨学金は、学費や実習費として使用させて頂きました。経済的な負担が軽減されて、学業に専念する時間が確保できるようになったことで、学芸員資格の取得に必要な授業を履修することができました。今後も勉学に励み、来年行う実習では自分の志望する美術館で実習させて頂けるように一層努力を重ねていきます。

最後になりますが、ご支援を下さった全ての方々に、心よりお礼を申し上げます。

駒澤会奨学金支援への御礼

文学部心理学科4年

村田 真衣 さん



このたびは、駒澤会奨学金のご支援をいただき、誠にありがとうございます。今回頂いた奨学金は、大学での学費の一部として活用させていただいたほか、自動車免許の取得やITパスポート資格取得のための費用に充てることができました。そのおかげで経済的な負担が軽減され、安心して学業に取り組むことができました。また、大学生活において、新しいことに挑戦する機会を得られたことは、自分の成長にとって大きな糧となっています。今後は、ここでの学びや経験を活かし、社会に少しでも貢献できるよう努力してまいります。このような機会をいただけたことに、改めて心から感謝申し上げます。

奨学金ありがとうございました 経営学部経営学科4年

古田土 紘汰 さん



このたびは、2年連続して奨学金を賜り、心より感謝申し上げます。奨学金は教材や参考書の購入、資格取得に向けた講座受講に充て、学業に専念できる環境を整えることができました。その結果、学業奨励賞を2年連続で受賞することができ、大きな自信と励みとなりました。経済的な不安が軽減されたことで、勉学や研究活動により集中でき、学生生活全体が充実したものとなっています。今後も努力を怠らず、学びを社会に還元できる人材となれるよう精進してまいります。

駒澤会奨学金への感謝と今後の抱負

経営学部市場戦略学科4年

井上 京介 さん



このたびは駒澤会奨学金を賜り、心より御礼申し上げます。いただいた奨学金は、主に専門書や参考資料の購入に活用し、学習を深めることに役立ちました。経済的な負担が軽減されたことで安心して勉学に専念でき、その成果として簿記2級を取得することができました。資格取得を通じて会計や財務の知識を高められたことは、今後の進路に大きく活かせると感じております。さらに将来は語学学習にも力を入れ、視野を広げていきたいと考えております。いただいたご支援を励みに、社会に貢献できる人材を目指して努力を続けてまいります。改めて厚く御礼申し上げます。

Information

基金管理委員会 基金管理状況のお知らせ

基金管理委員会より、前回会報にてご報告した以降の運用状況について、以下のとおりお知らせいたします。

運用先	令和7年7月～11月までの利金	備考
野村証券	246,604円	三菱UFJ、SB社債
みずほ銀行	1,070円	普通預金利息
世田谷信用金庫	2,904円	定期預金利息
合 計	250,578円	

各部入部のお誘い 一緒に活動しませんか？

総務部

駒澤会の規程や運営費について検討し、活動がスムーズに行われるよう全体的な調整をしています。

部長
桐畑 秀司



厚生部

会員の皆さまが楽しく有意義な時間を過ごせるよう、各種行事を検討しています。

部長
吉田 稔



広報部

会報誌「駒澤会だより」の発行やPR活動を中心とし、制作経験の有無にかかわらず、様々な意見を出し合い和やかに進めています。

部長
齋藤 和子



入部ご希望の方は
事務局までご連絡
ください。

編集後記 広報部 小町 肇子

先日、地元小学校で行われた星空教室のお手伝いに行ってきました。

星の素晴らしさを伝えたいと、星のソムリエさん達が、立派な天体望遠鏡持参で来てくださり、説明してくれます。今回は、月、土星、Lemon彗星を主に見せてくださいました。

月は半月よりも少し大きく、クレーターまで見えました。小学生からは、ウサギがいない。隠れているのかな？なんてかわいい発言もありました。

土星は、星のまわりを輪っかが囲んでいる印象ですが、今回は傾き具合から、輪っかではなく線に見えます。串刺し？の様に見えました。

Lemon彗星は、今年アメリカで発見された彗星で、天体望遠鏡でもぼんやりと見える程度でしたが、ソムリエさんが事前にパソコンにおとしてくださり、流れ星の様な鮮明な彗星を見る事ができました。

今回は1100年後と予測されているそうで、貴重な体験ができました。

お手伝いと言うよりは、秋の夜空に魅了され、すっかり癒されて帰宅した私でした。

駒澤会だより 第43号

発行日：令和7年12月16日
発行者：駒澤大学駒澤会広報部

〒154-8525 東京都世田谷区駒沢1-23-1

03-3418-9189

www.https://www.komazawa-u.ac.jp/komazawakai/

